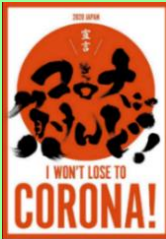


30年度補正

ものづくり
技術

佐藤食品工業有限公司



人手不足に対応した自動化設備導入による革新的な生産性向上計画



全国納豆鑑評会で特別賞を受賞した鹿児島県産大豆100%使用の「鹿児島大粒納豆」

手作業のコンテナ積み上げ作業が生産性を大きく損ねていた

納豆は血液をサラサラにする効能があり、動脈硬化や心筋梗塞、脳梗塞など血管系の病気を予防する効果が期待できる食品で近年需要が高まっている。取引先が増え、生産量が増加するに従い、手作業が多く残る現状の製造ラインにおいて、高齢の作業者が重いものを持ち上げるなど体に負担をかけながら長時間作業を続けざるを得ないという状況が長く続いており、負担軽減ができる最新設備の導入が必要であった。



全自動オートケーサー(納豆用)

こんな会社です



代表取締役 佐藤 眞一郎

納豆で心も体も元気いっぱい！

先代社長の「納豆を自分で作って食べたい」との思いから、昭和29年に鹿児島市伊敷で納豆づくりをスタートしたが、手狭になったことから平成元年に現在の日置市伊集院町に新工場を建設しました。「おいしい納豆、鮮度の良い納豆」づくりをめざしています。国産大豆と北米産大豆のみを使用し、主に大粒・小粒・ひきわり納豆などの自社オリジナル商品生産とOEM生産を行っています。

全自動オートケーサー導入で作業者の身体的負担軽減と生産性向上を図った



自動でコンテナを積み上げる

従来、半自動のオートケーサー2台（2ライン）を使用していたが、1ラインを全自動オートケーサーに切り替えた。結果、2ラインを1名で担当できるようになり、1名は他の作業（包装・出荷等）に充てることが可能になった。新設備はコンテナへの積み上げが自動で行えるため作業者の身体的負担の軽減につながる。とともに、人手不足が常態化している中で生産性が大きく向上した。

取引先への十分な供給が可能となった

仕込み作業に要する時間が短縮され、作業員1人で2つの製造ラインを担当することが可能になったことから、生産性が大きく向上した。生産量が拡大したことにより、取引先への十分な供給が可能となり、時間外労働も改善できた。納豆の需要が年々拡大傾向にある中で、生産数量を増やすことはコスト低減にも繋がり、取引先が求める安定した供給や価格等の条件にも対応でき、納豆メーカーとして競争力を強化することができた。



コンテナを台車に下ろす

充填作業等にまだまだ改善の余地があり、設備投資を継続していく



私たちが愛情込めて造っています

国産大豆に拘った新製品や納豆が苦手な方への商品開発に積極的に取り組んでいく。また、従業員の高齢化が進む中、作業負担軽減を図り人手不足解消に繋げていく必要がある。更に生産性を高めるため、充填作業等の改善や設備投資を継続することにより一層の製造環境改善と生産性向上を進めていく。

info

佐藤食品工業有限公司
代表取締役 佐藤 眞一郎

事業実施場所
〒899-2514
鹿児島県日置市伊集院町中川1019-1
TEL 099-273-9039
FAX 099-273-9005
<http://www.hinodekko.com>

設立 昭和41年12月
資本金額 800万円
従業員数 27名
業 種 食料品製造業



本社工場